

日々雑感 未来・次世代へつなぐ想い

日本病院薬剤師会理事
東京証券業健康保険組合診療所薬剤部長
清水 孝子 Takako SHIMIZU



最近、信号機のない横断歩道で走行車が止まってくれることが多くなりました。歩行者優先は安全確保、事故防止の観点から道路交通法で規定されていますから、本来“止まってくれる”ではなくて、“止まる”のが原則です。ドライブレコーダー普及、監視体制強化の影響かもしれませんが、JAF（日本自動車連盟）が周知活動を続けていた背景もあることを知りました。2016年の全国調査では歩行者優先で一時停止した車はわずか7.6%、昨年はようやく30.6%だったそうです。コロナ禍の行動範囲が制限されたなかでの私見ですが、近頃は8割方が一時停止する印象があります。とはいえ、対向車や後続車との認識が違えばかえって危険です。交通量の多少によっても注意の仕方は変わってくるでしょう。歩行者のマナーも大切です。自動運転、危険認知・ブレーキ機能などの技術革新が著しいですが、それらはあくまで安心安全で生活がより豊かになるための手段の1つであり、本来の趣旨・目的を理解して何をいかに上手く活用していくかは環境とひと次第なのだ実感しつつ、自らの日常業務の課題と重ねてしまいます。

今夏、航空管制官がヒロインのドラマが放映されました。有事に備え緊張感をもって無事に離着陸を誘導しても何事もないことが当然で、表立って感謝されることは少ない—どこかで聞いたことがあるような…。でも、“航空管制官はパイロットに安心を与える存在であるとともに高度な専門知識が求められ、ひとの命を預かる思いやりのある職種”，制作にあたっては国交省航空局が取材協力、日本航空が全面協力したそうです。“信念と責任とやりがいをもって臨む縁の下の力持ち”は悪くない、むしろかっこいい。そのうえで“患者そして医師等に安心安全を与える存在であるとともに高度な専門知識が求められ、ひとの命を預かる思いやりのある薬剤師”であるよう努めたい。診療所委員会活動では、Future Pharmacist Forumなどの機会を活用しながら、診療所薬剤師の実践事例を通じて、薬剤師による診療支援・患者支援について広報していきたいと思えます。

「カルテはノンフィクション、下手な小説より深くて面白いよ」—まだまだ病棟薬剤師の活躍が珍しかった時代に先輩から伺った言葉です。患者さんそれぞれに人生のストーリーがあり、医療者はその人生の一端にかかわります。おおむねが何らかの苦痛・困難を伴う状況において。面白いなんてけしからん？ いえ、臨床上の重要なデータや情報を読み解く知識やスキルをもつこと、一時ではなく経過を診ること、患者と向き合うこと、今につながる薬剤師として必要なことを教えていただいたと勝手に感謝しています。

研究、開発、製造～円滑な流通、販売、管理等々が確保されての薬物療法。物を大切にする精神とともに、互いを尊重し、連携しながら薬剤師による対人業務がますます推進されていくことを切に願います。